

## 送辞

冬の寒さも少しずつ和らぎ、春の訪れを感じ始める今日の佳き日に、鹿北中学校を卒業される27名の先輩方、ご卒業おめでとうございます。

先輩方と過ごした日々は、長いようで、今ではとても短く感じます。

先輩方から私たちは、たくさんのことを学ぶことができました。

いつも学校をリードしてこられた、先輩方の堂々とした姿に、私たちはあこがれていました。この1年間で、先輩方に対するあこがれは、いっそう強くなりました。

体育大会では、「完全燃焼～魅せろ！団結 進め！限界のその先へ～」というテーマのもと、赤団、青団がそれぞれ、団長や応援リーダーを中心に団結しました。

特に先輩方は、今年が最後なので、とても真剣に取り組まれていました。その真剣さに、1・2年生も、本気で頑張らなくてはという思いになりました。

精一杯の声で、1・2年生をリードしてくださり、みんなで一生懸命取り組んだ、思い出に残る体育大会となりました。

部活動では、市中体連が近づくにつれ、どの部も優勝目指して、必死に頑張りました。

ハンドボール部の先輩方は、部が創部された時の最初の入学生です。今年こそは優勝するという気持ちで、毎日練習されておられる先輩方の姿を、私も同じ部の後輩として、ずっと見てきました。

市中体連では、惜しくも2点差で敗れてしまいました。しかし、県中体連では勝つことができ、県で3位になることができました。悔し涙も流しましたが、勝ってうれし涙も流すことができました。

ハンドボール部だけでなく、野球部や弓道部も県大会で、吹奏楽部は県コンクールで好成績を残されました。

先輩方の思いを受け止めて、これからも毎日、練習を頑張っていきます。

清流祭では、先輩方の表現力豊かな演技に引き込まれました。先輩方の劇を見て、家族を大切にしなければならないことを学びました。

そして、家族への感謝の気持ちを持たなければならないと思いました。自分の家族について振り返り、深く考えることができました。

また、合唱では、美しいハーモニーと歌声で、さすが3年生という歌を聴かせてくださいました。私たちも先輩方のように歌えるようになりたいと思いました。

かほくまつりでは、10年ぶりに神輿が復活しました。地域の方々と協力され「そいや！」

というかけ声で、まつりを盛り上げてくださいました。

300キロもある重い神輿は、先輩方で息を合わせて持たなければなりません。チームワークが必要で、とても大変だったと思います。きっとたくさんの練習をされたことでしょう。

当日は、小さい子どもから高齢者の方までたくさんの方が、神輿のまわりに集まりました。鹿北グラウンドが「そいや！」というかけ声で、いっぱいになりました。神輿を担ぐ先輩方の勇壮な姿は、鹿北町を元気にしてくれました。

この1年間、様々な活動を通して先輩方は、私たちにとって、あこがれの存在となりました。困ったら、優しく声をかけてくださり、教えてくださる先輩方のようにになりたいです。そして、先輩方のように活動を広げていく中で、周りの人たちを笑顔にしていきたいです。

先輩方が卒業されるのは、本当にさびしいです。

しかし、これまで先輩方が築き上げてこられた伝統を受け継ぎ、今度は私たちが、これからの鹿北中学校を、よりいっそうすばらしいものにしていきます。

先輩方と共に過ごした日々は、私たちの誇りです。本当にありがとうございました。

最後に、卒業される27名の先輩方の未来が、希望に満ちあふれたすばらしいものとなりますよう祈念して、送辞といたします。

平成31年3月9日

在校生代表 松房 実佑